

令和8年度「いわき市派遣事業」

長崎市では、生徒会リーダー研修会として毎年夏休み期間中に、福島県いわき市の生徒たちと交流会を行っています。今年度は、2年ぶりに長崎市の生徒がいわき市を訪問して交流を行うことになり、本校から3年生の〇〇〇〇さんと2年生の〇〇〇〇〇さんの2名が本事業に参加しました。

二人は、8月1日から3泊4日の日程でいわき市を訪問し、東日本大震災の実相や復興の道のりについて学びを深めてきてくれました。二人の貴重な経験を学校全体で共有したいと思い、参加した感想を書いてもらいましたので掲載します。



僕は、長崎市といわき市の中学生の交流のため、いわき市へ行きました。僕が行ったいわき市では様々なことを学びました。長崎では知ることができない文化や歴史などいろいろなことを知りました。その中で僕が特に知ったことは、東日本大震災の被害でした。被害がとても大きく、見に行った請戸小学校の周辺は、木などはさほどなく、見渡す限り平野でした。僕は最初、開発がされてこなかった土地かなと思いました。もともと家や祭りもあり活気があった街だったと聞いたときは、衝撃を受け鳥肌が立ちました。そのとき自分は、それまで地震やそれに伴う津波などの力を楽観視しすぎていたと思いました。いわき市には津波などの被害や悲惨さを忘れないように、伝承館や津波に関する碑石などがありました。

これらのことを学び、思ったことは両方の市は、平和を慈しむ気持ちや被害者への追悼の意は土地が違えど酷似しているなと思いました。様々なことを深く学べたので非常に実りある体験になったと思いました。

3年 〇〇 〇〇



最初に質問です。皆さんはどれだけ東日本大震災について知っていますか？

私は8月1日から4日まで行われた、いわき市派遣事業に参加してきました。その派遣事業の中で、津波、原発の怖さを学び、いわき市の中学生と交流しました。

まず、津波についてです。私たちは海から100mほどの請戸小学校という場所に行ってきました。衝撃的だったのは、当時のままの印刷室です。そこは言葉では表せないほどの状態で、実際の現場を目にすると、今まで思っていた津波のイメージではなく、思わず息をのみました。また、いわき伝承未来館では、語り部さんの話の中で、原子炉の水素爆発のことや、今でも続く風評被害の話を知りました。放射能の影響で人が歩けない場所など、15年経った今でも、東日本大震災は終わっていないことに気づかされました。世界観が変わります。興味がある人は、ぜひ体験してください。

2年 〇〇 〇〇〇

二人の感想に出てくる浪江町立請戸^{うげと}小学校は、地震発生後に津波が小学校を直撃し、1階教室、職員室、体育館まで飲み込まれ、2階床上約10cmまで浸水しました。しかし、地震発生時に学校にいた2年生から6年生までの児童82名と先生方は、地震発生直後から避難を開始して津波を逃れ、全員が生還した「奇跡の小学校」として知られています。